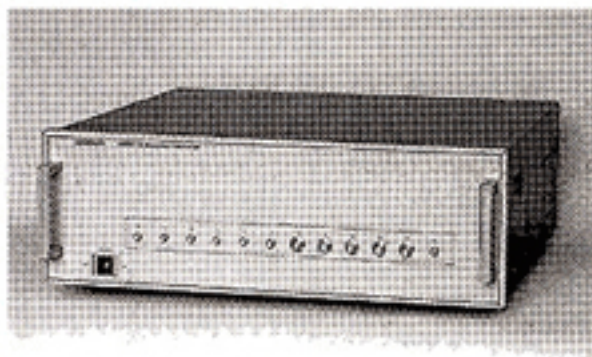


車載器試験システム発売

マイクロニクス初のQPSK対応

電子計測機器の製造・販売を手がけるマイクロニクス(東京都八王子市、田仲克彰社長)は、ETC(有料道路自動料金收受システム)とDSRC(狭域通信)を組み合わせた次世代ETCシステム「ETC/DSRC」の車載器試験システム「ME9000」とRSU(EVC路側機)シミュレーター「ME9010」を開発、6月から販売を開始した。

「ME9000」とRSU(EVC路側機)シミュレーター「ME9010」を開発、6月から販売を開始した。



有料道路の料金所渋滞を緩和するため01年から導入されたETCは、料金收受システムとして定着、ETC専用レーンが設置されるまで定着している。ETCは、車載器と料金所に設置された路側機間で双方向通信を行う技術を用いており、変調方式にはASK方式が用いられている。

一方、DSRCシステムは、ITS(高度道路交通システム)のひとつとして駐車場管理や物流管理、ガソリンスタンド代金支払いなど様々な分野での利用が期待されている新技術。ETCに比べ大量のデータを双方向で通信するので、QPSK(4位相偏移変調)という変調方式を採用、ASK方式の4倍となる4Mbps(メガビット毎秒)の伝送速度でデータを交換する。ETCとDSRCシステムを組み合わせることによりETCの利用範囲が飛躍的に拡大する。

今回、同社は業界で初めてQPSK方式に対応する路側機シミュレーター、車載器試験システムを開発した。価格はME9000システム(ASK、QPSK搭載)が1132万円から、ME9010シミュレーター(同)が752万円から。ME9000、ME9010シミュレーター合わせて年間20セットの販売を見込んでいる。問い合わせは同社(電話0426・37・3667)まで。